

## 4 目指すまちの実現に向けて

### (1) 基本姿勢

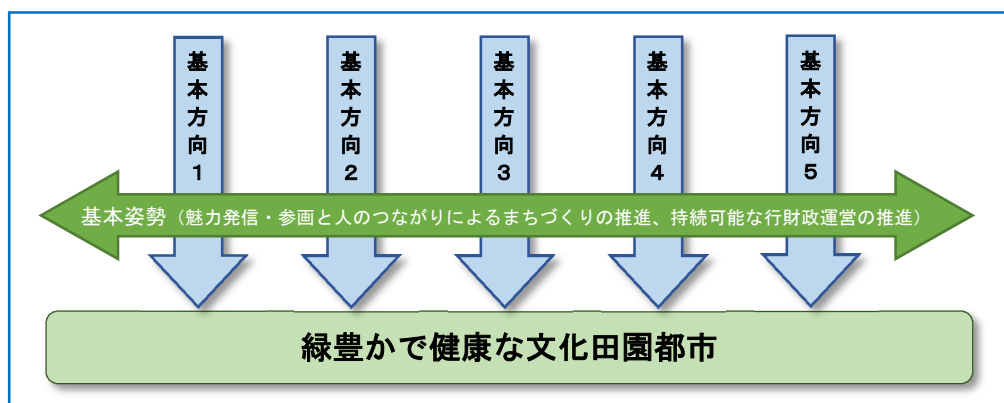
- ・本市では、今後も10年程度人口増加が見込まれることから、さらなる行政サービスの充実を進めるとともに、少子高齢化の進行や将来的な人口減少を見据え、複雑多様化する地域の課題を解決するため、次の基本姿勢※に基づきまちづくりを推進します。

#### ■ 魅力発信・参画と人のつながりによるまちづくりの推進

- ・市内外へまちの魅力を発信しイメージを高めることにより、まちへの誇りと愛着を育むとともに、様々な分野での交流を促進することで、まちの活性化に取り組みます。
- ・市民、事業者、大学等と行政が市民生活やまちづくりに関わる情報を共有し、連携を深めることで、それぞれの役割と責任を果たしながら、参画と協働によるまちづくりを進めます。
- ・「まちづくりは人づくり」を基本に、郷土愛をもって、まちづくりの主体的な担い手となり、人と人のつながりを育みながら、お互いに支え合うまちを目指します。
- ・広域的な課題解決のほか、市の強みをさらに生かしていくため、関係自治体との連携を強化することにより、効果的・効率的な施策の実施に取り組みます。

#### ■ 持続可能な行財政運営の推進

- ・複雑多様化する市民ニーズに対応した行政サービスを効率的に提供するため、市民への説明責任を果たしながら、「選択と集中」、「スクラップ・アンド・ビルド」※の視点をより一層重視し、限られた財源の有効活用や、公共施設マネジメントを推進するなど、持続可能な行財政運営に取り組みます。
- ・事業者や大学等の民間活力やノウハウを活用し、効率的で質の高いまちづくりを進めます。
- ・行政内部においては、職員一人ひとりの能力を向上させるとともに、チームワークを強化し、行政サービスの向上に取り組みます。



※基本姿勢は、まちづくりの推進にあたって、すべての基本方向に共通する基本的な取組みの考え方を示すものです。

※『スクラップ・アンド・ビルド』社会潮流や市民ニーズに対応した新たな事業を実施するにあたっては、効果や必要性が低くなった既存の事業を縮小・廃止するなど見直しを加えるという考え方。

## (2) 基本方向

- ・基本方向では、市民・中学生アンケートの結果などを踏まえ、最も関心の高い「安全・安心」と、都市像である「緑豊かで健康な文化田園都市」の実現に向け、「緑」「健康」「文化・教育」「田園都市」の5つの柱に分けて示します。

### 基本方向〈1〉安全で心安らぐ優しいまち

- 地震や風水害などの自然災害に対し、防災・減災体制の強化や治水対策を推進するなど、災害に強いまちをめざします。
- 市民・行政・警察との連携のもと、交通安全対策の推進や地域防犯対策を充実するなど、交通事故や犯罪の少ないまちをめざします。
- 性別や価値観、国籍などにとらわれず、お互いを認め合い、受け入れながら、だれもが安心して暮らせるまちをめざします。

### 基本方向〈2〉緑に包まれた美しいまち

- . . . . .

### 基本方向〈3〉いきいき健康で明るいまち

- . . . . .

### 基本方向〈4〉子育てしやすく未来を育む文化薫るまち

- . . . . .

### 基本方向〈5〉活力にみちた便利で快適なまち

- . . . . .

#### ・見直しにあたっての基本的な考え方

「わかりやすさ」「見やすさ」を重視

現行計画の施策体系（p 38）は、2階層で、3つの大分野（章）と、8つの中分野（節）に行財政運営関係を加え、9分野に区分していた。

今回は、都市像との関係を明確にして、階層をなくすことで、わかりやすく、見やすくしている。

第4次総合計画(仮)		第4次総合計画 基本方向検討資料			H30.11.29時点
基本方向(素案) ●2～4項目(1項目A4印刷時概ね3行まで)で、各分野をカバーするよう箇条書き。文体は「●(具体的な施策の例示)・・・など、□□□のまちをめざします。」を基本。		分野(参考) ※現行計画の構成を、新しい基本方向に、仮に、関連づけたもの。	市民意向の反映 (■:アンケート ○:ワークショップ)	社会潮流	市の課題・大きな事業等 (■:課題 ○:大きな事業等)
へ1へ安全で心安らぐ優しいまち	● 地震や風水害などの自然災害に対し、防災・減災体制の強化や治水対策を推進するなど、災害に強いまちをめざします。	1 防災・危機管理		近年の気候変動に伴い、大規模災害が多発	○防災広場整備
		2 消防		民間の主体的な取組、強靱な地域づくりの推進(国土強靱化)	■防災力の強化と交通安全や地域防犯対策の推進 ■災害時の円滑な避難のため、自治会等地域組織、ボランティア組織を育成 ■普段からの、市民の防災意識の向上 ■災害発生時に市民への被害や影響を最小化するため、迅速に応急、復旧対応ができる体制づくり
		3 河川・水路整備			
	● 市民・行政・警察との連携のもと、交通安全対策の推進や地域防犯対策を充実するなど、交通事故や犯罪の少ないまちをめざします。	4 交通安全・地域防犯対策	■目指すべきまちの姿(市民・中学生) 犯罪がなく、災害に強い安全・安心なまち ○ほっとHOTネットワークプロジェクト【安全・安心】	高齢化の加速	
		5 消費生活			
	● 性別や価値観、国籍などにとらわれず、お互いを認め合い、受け入れながら、だれもが安心して暮らせるまちをめざします。	6 平和・友好交流		働き方改革による女性の社会進出進展 外国人労働者の増加	
	7 人権尊重				
	8 男女共同参画				
へ2へ緑に包まれた美しいまち	● 木津川や甘南備山、まちなかの緑など、自然を守り育て、市民が自然にふれ合う機会を充実するなど、自然と共生し、豊かな自然環境を次世代につなぐまちをめざします。	1 緑の保全・再生	■京田辺市の魅力(市民) 自然環境に恵まれている	パークPFIの活用	○農福連携公園整備
		2 公園・緑地	○緑あふれるまちづくりプロジェクト		○水辺の散策路の整備
	● ごみの減量化や省エネルギー、新エネルギーの推進により地球温暖化防止と循環型社会の実現に貢献するとともに、良好な都市景観の形成やまちの美化活動を促進するなど、環境に配慮した美しいまちをめざします。	3 都市景観	○地域の豊かな自然環境と共存する仕組づくり	地球温暖化対策の「パリ協定」発効 地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨等の地球環境問題 エネルギー問題の拡大と再生可能エネルギーへの転換	■持続性可能な社会創出のため、ごみ減量化等の循環型社会の推進と、省エネ等の地球温暖化対策の取組みを推進 ■公園や水辺の散策路などの整備による、地域交流の場や健康づくりの推進 ■自然環境の保全による、自然と共生するまちづくり
		4 生活環境			○新たなごみ焼却施設の整備
		5 循環型社会			

基本方向(素案) ●2～4項目(1項目A4印刷時縦紙3行まで)で、各分野をカバーするよう箇条書き。文体は「●(具体的な施策の例示)・・・など、□□□のまちをめざします。」を基本。		分野(参考) ※現行計画の構成を、新しい基本方向に、仮に、関連づけたもの。	市民意向の反映 (■:アンケート ○:ワークショップ)	社会潮流	市の課題・大きな事業等 (■:課題 ○:大きな事業等)
へ3 いきいき健康で 明るいまち	● 市民が自ら健康づくりに取り組むとともに、支え合いによる地域の絆を育むなど、だれもが健康で自分らしく生きられるまちをめざします。	1 地域福祉 2 高齢者福祉 3 障害者福祉 4 健康づくり	■目指すべきまちの姿(市民) 誰もが健康で安心して暮らせる福祉が充実したまち  ○安心して医療相談できる環境づくり	生活環境の向上、医療技術の進歩による長寿化 団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題(介護) 人口減少・少子高齢化	■高齢者が、これまで培ってきた知識や経験を生かす機会や、多世代と交流する場の確保 ■高齢者・障がいのある方など、誰もが住み慣れた地域で自立して住み続けることができるよう、医療・福祉・サービスの充実と、働く場の確保 ■市民が自ら健康の維持増進に取り組めるよう、ライフステージに応じた健康づくりの推進 ■子育て世代、子ども、障がいのある方、高齢者などが、孤立することのないよう、地域の中で住民同士がつながれる交流の場を増やす  ○農福連携公園整備 ○水辺の散策路の整備
	● 医療、介護、年金など、生活の基盤となる社会保障制度のもとに、安定した生活を営み安心して暮らせるまちをめざします。	5 社会保障	■広域的な視点からみた市の姿(市民) 医療施設が充実しているまち		
へ4 子育てしやすく 未来を育む文化 薫るまち	● 子どもが生まれる前から子育てに寄り添い、仕事との両立を支援するなど、地域全体で子育てを支え、安心して子どもを生み育てられ、子どもが健やかに成長するまちをめざします。	1 子ども・子育て	■目指すべきまちの姿(市民) 子育てしやすいまち	子どもの貧困対策の推進に関する法律の成立(H25年)  人口減少・少子高齢化  ひとり親、共働き家庭の増加など家族のあり方が多様化し子育て環境が変化  保育・幼児教育の無償化	■若者・子育て世代が住んでみたい、住み続けたいまちになるための、結婚・出産・子育てしやすい環境・仕組みづくり ■待機児童を出さない
	● 確かな学力と豊かな人間性、たくましく健やかな体を育むなど、質の高い教育により一人一人が輝く京田辺っ子が育つまちをめざします。	2 就学前教育 3 小・中学校教育	新たな計画では、分野を一つに統合する。 「就学前～小・中学校教育」	小1プロブレム・幼小接続 「教育立国」の実現に向けた取り組み アクティブラーニングの推進 グローバル化の進展に対応した英語教育 ICTの活用の推進	○京田辺市版幼保一元化とこども園整備(耐震化含む)  ■特色ある学校教育の推進による教育水準の維持・向上 ■大学のあるまちとして、学研都市ならではの教育環境及び生涯学習環境の充実 ■計画的な教育施設の整備  ○小中学校施設の長寿命化工事 ○中学校完全給食の実施
	● 市民が文化に気軽にふれ、活動できる機会を充実するなど、京田辺らしい文化を創造し未来へ継承する、文化の薫るまちをめざします。	4 文化振興			○複合型公共施設(文化施設)  ■伝統・文化の継承による地域への愛着や誇りの醸成
	● 市民が学びやスポーツに参加する機会を充実するなど、だれもが生きがいをもって学び続けるまちをめざします。	5 青少年の健全育成 6 生涯学習 7 スポーツ振興	■今後の市民活動の意向(市民) 趣味や学習・文化スポーツなどの活動への参加意向が高い  ○ふれあい広場づくり	大学における生涯学習機会の提供 eラーニングの活用  スポーツツーリズム オリンピック・パラリンピックの開催	○竜王野外活動センター民営化等検討  ■大学のあるまちとして、学研都市ならではの教育環境及び生涯学習環境の充実 ■「全国小学生ハンドボール大会」などの開催を通じたスポーツ振興の充実



基本方向(案案) ●2～4項目(1項目A4印刷時縦ね3行まで)で、各分野をカバーするよう箇条書き。文体は「●(具体的な施策の例示)・・・など、□□□のまちをめざします。」を基本。		分野(参考) ※現行計画の構成を、新しい基本方向に、仮に、関連つけたもの。	市民意向の反映 (■:アンケート ○:ワークショップ)	社会潮流	市の課題・大きな事業等 (■:課題 ○:大きな事業等)
へ5へ 活力にみちた便利で快適なまち	● 自然と調和したコンパクトな都市構造と、道路網、鉄道網やバス路線のネットワークを充実するなど、だれもが便利に暮らせるまちをめざします。	1 土地利用	■京田辺市の魅力(市民・中学生) 交通の便がよい	日常生活に必要なサービスや行政サービスが住まい等の身近に存在するコンパクトシティ・プラス・ネットワーク	○田辺中央北側新市街地整備 ○都市計画道路 大住・草内線整備 ○学研都市(南田辺西60ha) ○新名神(H35)・北陸新幹線 ○大住工専拡大  ■交通利便性を生かした、北部、中部、南部それぞれの拠点への都市機能の集積 ■鉄道や高速道路などの広域交通ネットワークを生かし、京都府南部の広域的な拠点としての役割を担うためのまちづくり ■北陸新幹線新駅の設置により、その効果をまちづくりに最大限に生かすため、インフラ整備の検討を進めるなど準備に取り組む ■良好な住環境の維持・充実 ■鉄道によるさらなる交通利便性の向上、バス交通ネットワークの維持と発展に向けた利用促進 ■少子高齢化・人口減少を見据えた、空き家などの既存ストックの活用 ■ライフラインとしての上下水道施設・管路の耐震化と長寿命化
		2 道路網	■広域的な視点からみた市の姿(市民) 通勤・通学しやすいまち 買い物飲食など施設が充実	都市のスポンジ化	
		3 市街地整備	■目指すべきまちの姿(中学生) 電車バス高速道路で快適に移動できるまち 駅近くに買い物する場所が集まった便利なまち	スーパーメガリージョンの推進	
		4 公共交通		バリアフリーからユニバーサルデザインへの転換	
		5 バリアフリー	■目指すべきまちの姿(市民) 生活に必要な施設や道路、住宅などが整備されたまち	空き家の増加	
		6 住宅・住環境		公共施設・インフラ(ライフライン)の老朽化	
		7 上水道			
		8 下水道・生活排水処理			
	● 地域の特性を生かして、農業、商業、工業、観光の活性化を図るとともに、各産業間の連携や企業立地を促進するなど、市民とのつながりのなかで、産業が持続的に発展するまちをめざします。	9 農業	○京田辺魅力発見・発信プロジェクト ○特産品のブランド化	生産年齢人口の減少、潜在的な成長率の低下 TPPによる生産額の減少・自給率の低下	■農業の担い手育成、京田辺の特産品等を生かした地域ブランドの確立など農業の活性化  ■交通利便性と増加する労働力人口を生かした企業立地の促進 ■AIやロボット、IoT等の活用と合わせ、大学や研究機関との連携による新産業の創出 ■豊かな自然資源や歴史・文化・スポーツ資源等を生かしたインバウンドにも対応できる観光の創出 ■まちのにぎわいを創出するための、中心市街地の活性化
		10 商業	○みんなの広場づくりプロジェクト ○目に見える広場づくり(田辺中央) ■京田辺市の魅力(中学生)日常生活で利用する施設(スーパー・コンビニ)が充実している	山間部等での買い物難民 郊外大規模小売店の出店による中心市街地の衰退 電子マネー決済によるキャッシュレス	
		11 工業	■将来京田辺市に住みたくない理由(中学生) 生活の楽しみ、遊び場が多いところがよい	社会・経済のグローバル化の進展、企業の国外流出 IT、AIなどの進展による労働の質の変化 スーパーメガリージョンの推進	
		12 観光	○地域資源を活かした観光振興	インバウンド観光の増加 観光ニーズの多様化 オリンピック・パラリンピックの開催による観光客の増加	
		13 新産業創出	○産・官・民 竹プロジェクト	働き方改革による柔軟な働き方がしやすい環境整備、ダイバーシティの推進	
		14 雇用促進・勤労者福祉	■将来京田辺市に住みたくない理由(中学生) 就職先がない。		
基本姿勢	基本姿勢部分に記載	1 市民参画・協働の推進	■行政改革(市民) 職員の人数や給与などの適正化、企業誘致や企業の進出支援、市民と企業と協働したまちづくり	市民のボランティア、NPO活動の広がり 価値観、ライフスタイル、ニーズの多様化・高度化	
		2 コミュニティ活動・市民活動	○多様な主体間のネットワークづくり		
		3 交流・連携の推進	■行政と市民の関わり(市民) 市民、地域、行政が役割分担すべき 民間活力をもっと活用すべき		
		4 効率的な行財政運営の推進	○新たな箱物を作るのではなく、今ある道を使う工夫	情報通信技術の進展(AI、IoT等)	